

## 今を生きる、時代を描く 作品リスト

2023年4月5日（水）～4月30日（日）※月曜日休館

圧倒的な大画面の魅力で戦後日本画壇に旋風を巻き起こした横山操[1920-1973]は、額に汗して働く人がすぐ分かるような生命のこもった、生活実感のある絵を描くことを信条としました。横山の盟友となるのが、昭和の琳派との呼び声の高い加山又造[1927-2004]で、この2人がともに戦後日本画壇を牽引し、多摩美術大学で教鞭を執りました。福井出身の日本画家・米谷清和[1947-]は県立高志高等学校卒業後、多摩美術大学日本画学科へ進学。そこは絵の講評そっちのけで横山、加山の両氏が芸術論や人間論を戦わせる実に魅力的な空間だったといいます。在学中、横山に見込まれ横山操奨学金で渡欧。そこで過去の巨匠の技術には到底及ばないと絶望に近い諦めを感じますが、それでも絵が好き自分を自覚し、過去でも未来でもない今の時代を生きる自分にしか描けないものに真正面から向かい合い、感じたままを精一杯描いてゆこうと決心します。迷いを捨てて描いた《エレベータ》（1972年）は日展に初入選し、「新しいタイプの絵」として世に紹介されました。

1971年に横山が脳卒中で倒れ、右半身不随になるなか、学生であった米谷は家族同様に付き添い、その最後を加山とともに見届けました。米谷にとって、53歳で亡くなった横山操との日々は濃密ながらも6年ほどで、加山と共に大学の後進の指導にあたった日々の方が長いものとなります。都市の雑踏を描いていても、どこか傍観者のような視点は、むしろ加山からの影響だといいます。

本展は横山と加山の代表的な作品を1点ずつ、そして米谷の初期から近作までの約60点が一堂に会します。そこには熱血指導で学生たちの人格や性格までも慮った横山操、冷静に絵や技術についての的確な批評をした加山又造という2人の優れた師に、1人の青年が出会い、成長し、今に至るまで生きた時代を描き続けた軌跡が見て取れることでしょう。

### 第1会場（2階 第4展示室）

	作家名	作品名	制作年(和暦)	作品番号/所蔵
1	横山操	川	1956(昭和31)	当館蔵 J-5
2	加山又造	駱駝と人	1957(昭和32)	当館蔵 J-121
3	米谷清和	あいつ(Y君)	1970(昭和45)	作家蔵
4	米谷清和	昼下がり	1970(昭和45)	作家蔵
5	米谷清和	終電車I	1971(昭和46)	作家蔵
6	米谷清和	エレベータ	1972(昭和47)	当館蔵 J-135
7	米谷清和	犬吠埼	1967～68(昭和42～43)頃	作家蔵
8	米谷清和	玉蜀黍	1967(昭和42)	作家蔵
9	米谷清和	枯色	1968(昭和43)	作家蔵
10	米谷清和	刻々	1977(昭和52)	当館蔵 J-122
11	米谷清和	老(ふゆ)	1978(昭和53)	個人蔵
12	米谷清和	夏	1981(昭和56)	当館蔵 J-315
13	米谷清和	蟬の鳴く頃	1985(昭和60)	福井新聞社蔵
14	米谷清和	ゴビの家	1982(昭和57)	個人蔵
15	米谷清和	ぼうざん 亡山の家	1982(昭和57)	作家蔵
16	米谷清和	夏の一隅	1984(昭和59)	個人蔵
17	米谷清和	夏の或る日	1986～87(昭和61～62)	個人蔵
18	米谷清和	冬の雨	1988(昭和63)	個人蔵
19	米谷清和	雪、降りしきる	1985(昭和60)	当館蔵 J-316
20	米谷清和	午後の眼差	1989(昭和64)	作家蔵
21	米谷清和	真夜中の雨	1991(平成3)	作家蔵
22	米谷清和	秋、日の無い日	1993(平成5)	当館蔵 J-314
23	米谷清和	雨上がりの音・朝	1998(平成10)	作家蔵
24	米谷清和	雨上がりの音・昼	1998(平成10)	作家蔵
25	米谷清和	雨上がりの音・夕	1998(平成10)	作家蔵
26	米谷清和	小春日	2000(平成12)	当館蔵 J-320
	作家名	作品名	制作年(和暦)	作品番号/所蔵
27	米谷清和	永代映し	2008(平成20)	作家蔵

28	米谷清和	新大橋 夕景	2008 (平成20)	作家蔵
29	米谷清和	夜の川辺	2005 (平成17)	作家蔵
30	米谷清和	春の朝		個人蔵
31	米谷清和	音花火	2007 (平成19)	作家蔵
32	米谷清和	群星薫る	2009 (平成21)	作家蔵
33	米谷清和	明日の夜も	2010 (平成22)	作家蔵
34	米谷清和	夜時雨	2011 (平成23)	作家蔵
35	米谷清和	何気な春	2015 (平成27)	作家蔵
36	米谷清和	朝の日差し	2017 (平成29)	作家蔵
37	米谷清和	僕と日々 III	2019 (令和元)	作家蔵
38	米谷清和	そよぎさざめく	2020 (令和2)	作家蔵
39	米谷清和	さざめきのあと	2020 (令和2)	作家蔵
40	米谷清和	長雨をうべなう	2022 (令和4)	作家蔵

第2会場 (1階 ギャラリー)

41	米谷清和	冬の山	1970~80年代	個人蔵
42	米谷清和	妙高	1970~80年代	個人蔵
43	米谷清和	冬の道	1970~80年代	個人蔵
44	米谷清和	浅間	1985、6以降	個人蔵
45	米谷清和	蓼菘の冬	1970~80年代	個人蔵
46	米谷清和	蓼菘の冬	1970~80年代	個人蔵
47	米谷清和	三浦風景 早春	1970~80年代	個人蔵
48	米谷清和	峠から	1970~80年代	個人蔵
49	米谷清和	雪降峠	1970~80年代	個人蔵
50	米谷清和	茜	1970~80年代	個人蔵
51	米谷清和	水温む頃	1970~80年代	個人蔵
52	米谷清和	四阿山	1970~80年代	個人蔵
53	米谷清和	甲斐駒	1970~80年代	個人蔵
54	米谷清和	夏の夕	1970~80年代	個人蔵
55	米谷清和	初夏と朝靄	2021 (令和3)	作家蔵
56	米谷清和	そぞろ眺むる一春の夜	2016 (平成28)	作家蔵
57	米谷清和	五月の雨	1970~80年代	個人蔵
58	米谷清和	凧	1970~80年代	個人蔵
59	米谷清和	夏の樹	1970~80年代	個人蔵
60	米谷清和	窓	1970~80年代	個人蔵